

総合的な学習の時間（単元計画案）

- 1 日時 2022年（令和4年）10月31日（月）
- 2 学年・組 3年3組 32名（男子 13名 女子 19名）
- 3 単元名：「自己実現」（50時間扱い）
- 4 単元の設定理由

○単元の設定理由

本単元は令和2年、広島県教育委員会より「広島県の15歳に身に付けておいてもらいたい力」として提示された「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」を学習の基盤とし、構成した単元である。探究的な学習を通して、変化の激しいこれからの社会において、主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように自分の人生を切り開き、より良い人生にしていくのかを、生徒たちが自ら考え、自分たちの答えを導きだしていくことで、自分の将来について深く考えていくことが目的である。

本単元では、自分のこれからの将来を見据えた進学・就職に関わることに、興味・関心を持ち、将来どのような人生を歩んでいきたいのか。自分自身の現実と理想を見比べたときに生じたギャップを課題と設定し、探究的な学習を進めることでその差を埋めていくことができる。課題を「自分ごと」として考えることができ、自己理解、将来選択、自己表現へと繋げることができるため、この単元を設定した。

○生徒の様子

本学年の生徒たちは、昨年度から探究的な学習を進めてきた。昨年度は「修学旅行のプランを提案する」ことを探究学習の一環で行った。昨年度末のアンケートでも「総合的な学習の時間は、おもしろい」91.9%、「探究（一人でも、グループでも）することは、おもしろい」86.2%と肯定的な回答が多く、探究的な学習に関して意欲的に取り組むことができていた。今年度の1学期末に行ったアンケートでも自己実現に向けた探究的な学習には意欲的に取り組むことができており、肯定的な回答が多く見られている。生徒たちにとって「自己実現」を果たすことは「自分ごと」として考えることができており、また、全国学力学習状況調査の「主体的・対話的で深い学び」に関わる質問事項も市や県の肯定的回答値を大きく超えている。特に「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」項目に肯定的な回答をしている生徒が88.8%と高く、生徒たちにとって学校での学びが自分の視野を広げ、将来を創っていくものと感じることができていると考える。

生徒たちは学習に対して前向きに取り組むことができるが、その一方で、振り返ることや既習事項を自分ごとに学びなおすことなどに課題が残るため、授業を通して振り返りの時間や自分自身を振り返り、どこに繋がるのかを考えさせながら、探究学習を進めていきたい。

校内アンケート項目（2022年1学期末）	とても	まあまあ	あまり	まったく
	あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
総合的な学習の時間は、おもしろい	36.4%	51.9%	11.7%	0%
探究（一人でも、グループでも）することは、おもしろい	35.1%	53.2%	11.7%	0%
自分やグループで、学習テーマを決めることができた	41.6%	55.8%	1.3%	1.3%
自分やグループで、学び方や調べ方を決めることができた	40.3%	55.8%	3.9%	0%
自分の思いのままアイデアや意見を出すことができた	32.5%	55.8%	10.4%	1.3%
学習していく中で、新たな疑問・課題が見つかった	27.3%	58.4%	11.7%	2.6%
学習を通して、自分は成長した	41.6%	50.6%	6.5%	1.3%

○今までの学習内容

自己実現に向けて、自分の今を振り返り、将来を見据えたうえで、不足している知識をまずは探究的な学習の課題としてとらえ、様々な情報収集の方法を選択し、得ることができた。また、面談を通して、将来の展望から、どこに役立つ情報なのか、その情報を調べてみて、実際に自分にとって有益だったのかどうかを確認しつつ、探究学習を進めてきた。探究してきたことをまとめて、一人ひとりが掲示することで、他者がどんな学びをしているのか、確認することで、視野を広げたりすることができた。また情報収集の中で、「実際に行って、見てみたい」という生徒の声から、オンラインで話を聞くことにも繋げていくことができた。実際に働いている方々に話を聞くことで、自分たちの今の状況や今後の取組にも変化がみられる生徒が多数いた。現在、自己探究を進めるにあたり、自分の将来の事ばかりを見据えて調べ学習が中心になっていた生徒がいるので、今の自分と将来の自分の比較を再度、行うことで新たな課題を見つけることができるように進めていきたい。

5 単元の目標

自己実現の達成を目指していく自己探究学習を通して、自己の特性について理解し、将来について考え、積極的に自己実現することができるようにすると共に、将来においてより良い判断をしようとすることができるようにする。

- (1) 今の自分と未来の自分を比較し、課題を発見することができる。
- (2) 課題に対して、自分の判断で情報収集をすることができる。
- (3) 情報を整理・分析し、自分との関連性を考えることができる。
- (4) 関連性の有無を判断し、より良い情報を得るための行動をすることができる。

また、別の課題を設定したり、別の情報を得たりするための行動をすることができる。

6 本校の育成する資質・能力とその手立て

本校の育成する資質・能力

資質・能力	目指す姿
学びに向かう力	・課題に対して、主体的に粘り強く学習に向かうことができる。 ・学習を通して、自己調整することができる。
課題発見・解決力	・現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる。 ・ある目的や課題に対して、問題の本質をとらえ、解決する方法を見出すことができる。
対話する力	・仲間と協力して、課題に対して解決することができる。 ・問題や自己との対話を通して、自らの力で課題を解決することができる。

手立て

資質・能力	育成するための手立て
学びに向かう力	自己実現に向けて、「自分ごと」として考えることができるように、今の自分と未来の自分との比較ができる課題の提案をする。生徒の声を聞ける環境(面談)を設定し、様々な場面に対応する。
課題発見・解決力	自己探究学習の中で、生徒との面談を随時行っていく。自分の言葉で、今の課題の状況を説明させ、解決の計画案を確認する。
対話する力	自己や他者との対話、ICT や図書館などの資料を中心に情報収集を進めていく。面談を通して、共通課題を持つ仲間を紹介したり、実際に働いている方々の意見から情報収集ができたりするような環境を引き出し、実現させていく。

<p>B <u>自己実現に向けて、(2)ア自己課題の解決は、自己探究をしてきた成果であることに気付くことができる。</u></p> <p>C <u>自己実現に向けて(1)ア自己課題の解決を、自己探究学習で行うことができる。</u></p>	<p>B <u>(2)ア今の自分と未来の自分を比較したときに生じたギャップを課題として設定し、(1)イ解決への見通しをもって計画することができる。</u></p> <p>C <u>(2)ア今の自分と未来の自分を比較したときに生じたギャップを課題として設定することができる。</u></p> <p>③「整理・分析」</p> <p>A <u>(2)ア様々な手法で得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、新たな課題を見出したり、(2)イ解決策のために整理したりすることができる。</u></p> <p>B <u>(2)ア様々な手法から得た情報を精選し、比較・分析を行う中で、(2)イ解決策のための情報を整理することができる。</u></p> <p>C <u>(2)イ様々な手法から得た情報を解決策のために整理することができる。</u></p>	<p><u>(1)イ面談を通して、自己の探究サイクルを再構築することができる。</u></p> <p>B <u>(3)イ自己・他者との対話を通して得た学びをまとめ、表現することができる。また、(1)イ面談を通して、自己の探究サイクルを見直すことができる。</u></p> <p>C <u>(3)イ自己・他者との対話から得た学びを自己探究のまとめへと表現することができる。また、(1)イ面談を通して、アドバイスをもらいながら自己の探究サイクルを見直すことができる。</u></p>
---	--	---

8 指導と評価の計画（50時間扱い）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
<p>I 自己探究 (40)</p>	<p>【1学期】</p> <p>○自己実現のために、自分を振り返り、未来を創造していこう！</p> <p>・自分の未来の姿を想像し、その未来を創っていくため（自己実現のため）に必要なこと（知識・技能など）を探究的な学習の課題と設定する。</p> <p>・課題解決に向けて生徒自身に情報収集の方法を考えさせ、情報を収集する。</p> <p>（情報収集：パソコン、図書室、アンケートインタビュー（校外））</p> <p>・情報を整理・分析する中で、必要な情報を探究ペーパーにまとめ、掲示する。</p>	<p>① ②</p>	<p>① ② ③ ④</p>	<p>③ ① ②</p>	<p>振り返りシート ロイロノート 探究ペーパー 行動観察</p>

	<p>・自分が得た情報や探究ペーパー（学年掲示）を整理・分析する中で新たな気づきや知りたい情報を新たな課題と設定し、自己実現のためにまた探究を行う。</p> <p>・振り返りシートに本時に行ったこと、次回に行いたいことを記入し、探究サイクルを意識しながら探究学習を進める。</p> <p>【2学期】</p> <p>○自己実現のために、視野を広げて、未来を創造していこう！</p> <p>・1学期末の修学旅行や夏休みのオープンスクールが自分の将来の姿にどのような影響があったのか面談を通して、確認をする。</p> <p>・自己探究を進める中で、面談を行い、生徒たちの計画の確認、状況の把握、今後の見通しなどを一人ひとり確認する。</p> <p>・情報収集や次の課題に関して、全体で収集方法の視野を広げたり、面談の中で考えを伝えたりすることで学びを広げる。</p> <p>・情報収集を学校内だけでは不足と感じ、学校外に目を向け、調べたい職業の方と連絡が取れるか確認し、話を聞ける方法を考える。</p> <p>・実際に働いている方との対話を通して、職業の本質的なこと、自己実現に必要な「今」と「未来」の情報収集をする。</p> <p>・今の状況と将来との自分を比較しつつ、課題を見つけながら、自己実現のためのまとめを考える。</p> <p>・自分が探究してきたことをまとめ、卒業探究に向けて、どんな形で残していけるのか、伝えていけるのかを考える。（本時）</p>	<p>①</p> <p>③</p> <p>③</p> <p>③</p> <p>②</p> <p>①</p> <p>③</p> <p>③</p> <p>③</p>	<p>③</p> <p>①</p> <p>③</p> <p>③</p> <p>①</p> <p>③</p> <p>③</p> <p>③</p> <p>④</p>	<p>①</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>②</p>	
<p>2 卒業探究 (10)</p>	<p>【3学期】</p> <p>○自己探究を自己表現していこう！</p> <p>・自分の今までの探究してきたことを生かし、様々な人たちの自己実現に対して手助けできるような探究活動のまとめを行い、提案をしていく。</p> <p>・同じ思考の生徒たちは冊子にする等、学校や地域、小学校など、様々な所に還元していく。</p>	<p>③</p>	<p>④</p> <p>④</p>	<p>②</p>	<p>振り返りシート 行動観察 ロイロノート</p>

9 学習の展開

(1) 本時の目標

今までの学びが自分の自己実現にどう影響しているのか確認し、卒業探究に繋げていくことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
1. 前時の確認	○前時の確認 今までの学習が未来の自分のどの場面に関わっていたのかを確認させる。今の自分と未来の自分との比較を行うことで、自己探究が自分の学びに繋がっていたことを実感させる。	
2. 自己探究	○自己探究のまとめ 自己探究、自己分析を基に、まとめの方法を考え、全体で共有させる。 →自分でまとめたものをどうするのか。どうしたいか。 →誰に伝えたいか。どこに残したいか。 →自己探究したもので、何を伝えたいか。 →「卒業に向けて、形にしていきたい」 それぞれがどのようなまとめ方をするのか、方法や計画を立てさせ、次の時間や全体の時間を意識させる。 教師はそれぞれの生徒に対してファシリテートする。 ・まとめをする方法を決めた生徒 ・まとめに入りたいが、方法が決まらない生徒 ・まとめに入るには、今までの課題が未解決な生徒 T1, T2で状況を確認しつつ、誰と面談、誰に声をかけるか相談しながら進めていく。	・今までの学びで得た情報や自己分析をもとに、自己探究のまとめを表現することができる。
3. まとめ	○まとめ 自分の状況を確認しつつ、自分にとってこの1時間でどんな学びがあったのか振り返りを提出させる。	

10 本時における評価基準

	評価の観点を記入
A評価	自己探究することで得た情報や自己分析を基に、自己探究のまとめを、先を見通した計画を作ることができたり、表現したりすることができる。
B評価	自己探究することで得た情報や自己分析を基に、自己探究のまとめを考えることができ、表現することができる。
C評価	自己探究することで得た情報や自己分析を基に、自己探究のまとめを考えることができ、表現しようと努力している。